（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス　よりみち（合同会社ハンディヤ）			
○保護者評価実施期間	2026年　5月　26日	～	2026年　6月　13日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	11名	（回答者数）	7名
○従業者評価実施期間	2026年　6月　1日	～	2026年　6月　13日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7名	（回答者数）	7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　9月　30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	不登校児への支援に関し、本人の気持ちを汲み取り、保護者や関係機関とに密に連携しながら関わらせて頂いている点。主として午前中に、デイサービスならではの手厚さを活かした支援を行っている。	児童本人の思いを第一に、保護者・学校の見立てを鑑みながら、三者の思いを擦り合わせる行程を大切にしている。時間の掛かるケースもあるが、本人の今の思いと、これからの本人の利益の両面を意識し、保護者や関係機関と共有しながら支援を行っている。	開所二年を迎え、デイとしてはリーチが難しいこと、デイだからこそできることが見えてきた。登校に限らず、将来的な本人の自立を目標とした出口戦略を見据えていくため、保護者や学校と情報共有や相談の機会を十分に確保していく。
2	児童の様子や困りごと、環境変化等について、保護者との密な連携をとれていること。事業所での活動の様子や児童の変化など、連絡帳アプリを通じて細やかに保護者へ伝えてることが出来ている。	保護者が気軽に連絡をとれることを重視し、対面・電話に加え、連絡手段にLINEを使えるよう整備している。その上で、児童本人や保護者の心配事が高まった際には、家庭へ提案の上、必要な際にはモニタリング面談を早めるなど、家庭の「今」にリンクできる支援を意識していること。	次期支援計画に向け、日々の支援記録のうち、特に児童・家庭の変化を取り上げた考察記録を支援担当者が別途作成している。これにより5領域それぞれの変化を追いやすくなるため、より児童・家庭の実像に根ざした個別支援計画の作成ができるような体制づくりを行っている。
3	ボードゲームを楽しめる活動を重視している点。勝ち負けや協力する経験を通し、目の前の相手とのコミュニケーションを豊かに育むこと、どうしたらうまくいくかをルールに則る中で考えることなど、ボードゲームによる療育効果は幅広いため、積極的に取り入れている点。	職員もボードゲームの輪の中にプレイヤーとして参加し、児童と同じ目線で楽しむことを大切にしている。勝っても負けても「楽しかった！また皆で遊びたい」という気持ちをもって次に繋げるようサポートし、人と関わること、ルールがあるからこそ自分本位ではない喜びの共有があることなどを繰り返し体験的に学べるよう意識している。	ボードゲームを通し、児童の良いプレーや好ましい振舞い、不適切な言動について、即座の声掛けを行うことにより、「周囲から見た自分」を獲得していけるよう、また、児童それぞれの支援計画の達成目標に鑑みた声掛けを行っていけるよう、ボードゲーム療育の職員研修を定期的に行っていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との連携が充分に取れていない。	町内会、地域の法人、地域の児童会館、地域生活活動センター、老人福祉施設など、地域に連携を取れる機関はあるが、コンタクトを取るに至っていない。昨年度は法人様との連携が一件、中央区社会福祉協議会の福祉除雪について参加要項などを確認するにとどまっている。	こういった外部連携のための時間を確保していけるよう調整し、当地域のハブとなる機関に対し、当事業所を知ってもらうために電話や訪問などコンタクトをとっていく。その上で、どのような取り組みが為されているかを把握し、当事業所として参画できることは今年度より取り組んでいく。
2	男性職員が現在一名しかいない。ドッヂボールなどの体を思い切り動かす活動などでは、高学年以上の男子には特に物足りなさがある様子。父性的な支援のバリエーションをもつ意味でも、男性職員の拡充は必要かと思われる。	常時求人を行っているがなかなか男性の応募のない状況。そもそもの応募者の少ない業界でもあるため苦戦している。この自己評価をご覧になった方、児童主体・前進気質な事業所であることがお判りいただけたかと思います。この場を借りてお伝えします。ぜひご応募お待ちしています！	児発連など、専門職協会にご協力を頂くなど、具体的な動きを始めていきたい。
3	事業所面積が狭い。	中央区の文教エリアであり児童数も多く、児童発達支援、放課後等デイサービス共に需要の高い地域である一方、十分な広さのある建物の供給は不足している。あと二部屋あるとさらに様々に効果的な活動に取り組める。また、隣接駐車場も無いため、送迎車両を回しに行くための時間を要している。	用地については開所当時にもさまざまに検討したが、現地以上の物件は無かった。現在も行っているように、今後もお出かけを多く取り入れ、屋外で思い切り体を動かせる機会、様々な体験の機会等をたくさん作っていく。